

## 南氏墓所 (足利・市指定)



南一族が眠る墓所

再発見

名草の史跡

203

杉木立の中を進むと、整然と並ぶ五つの五輪塔が現れる。足利尊氏の重臣、南遠江守宗継ら南一族の墓塔だ。

足利市教委文化課によると、南氏は足利家の執

事だった高氏の一族。尊氏の弟直義と高師直が対立した観応の擾乱後、

暗殺された師直に代わって一時的に執事を務めたのが、宗継だったという。宗継は1352年、尊氏から足利荘丸木郷(現在の名草)を拝領し、現在の金蔵院境内に居館を構えた。祖父の生地だった紀州名草郷にちなみ、

## 「名草」名付けた尊氏重臣

この地を「名草」と改め、特産品のシヨウガを広めたと伝わる。57年、居館北西に清源寺を建て、菩提寺とした。

(千葉県松戸市)創業者、故馬淵健一さんの寄進により整地し、立派な石段を設けた。

墓所は長年、清源寺住職が守る。中央に立つ宗継の墓塔は高さ138センチ。「清源寺殿法名性円」が「応安四年」と銘が刻まれている。

以来、同寺の第26世平林賢道住職(70)が山道の枝葉払いを続けている。「名草の始まり、ゆかりの人として大切に、精いっぱい管理を続けていきたい」と話している。(永寫理絵)

傾いた状態となっていたが、1987年、南氏の子孫でマップメーカー

(毎週水、木、金曜掲載。県南版は木曜)

【メモ】足利市名草中町3513の清源寺から徒歩1分。1983年、市史跡指定。

【名草の歴史】南東約5000坪の金蔵院は1429年、南氏居館跡に開山。宗継の孫宗氏の墓塔のほか江戸時代作の梵鐘、庚申塔、毘沙門天立像が市指定文化財となっている。

